



第7章

改革はなぜ後退したか 残された課題

八代尚宏

●これまで議論してきた分野は、現代日本が抱える問題群の一部にすぎない。潜在的に大きな民間需要がありながら、様々な制度や慣行がその顕在化を阻んでいる分野は、このほかにも多くある。また、経済社会の変化に対応した制度や規制の改革が所得格差を広げた要因とされ、促進されるどころか、小泉政権時代に実現したものについても、逆行が進んでいる場合も多い。日本経済の成長力を高めていくには、なぜこうした逆行が起きたのかを理解することが不可欠である。

●たとえば、時代の流れに立ち遅れた制度や規制の改革を通じて、財政支出なしに内需と雇用を拡大できる主要な項目として、都市の高度利用を妨げている住宅の容積率規制、多様な働き方を妨げている労働市場の規制、医療における保険診療と保険外診療との自由な組み合わせの禁止、介護・保育サービスにおける民間事業者の対等な立場での参入への障害などが挙げられる。

●いずれも、急速に進む高齢化社会において潜在的な需要の拡大が見込まれ、適切な改革がなされれば、健全なサービス産業としての発展が期待される分野である。これらの分野でカギとなる制度や規制を改革することが、財政に依存せず、今後の日本経済の持続的な成長を目指すための政策の大きな課題である。